学びのデザインシート（本時）

主体的・対話的で深い学びを実現する授業構想【国語/現代の国語】

1. 対象 1年

「書く」能力においては、1学期は基本的な能力の定着を目標として、「生活体験作文」を書いた。

2. 単元名 「読み手にとっての分かりづらい文章を、本文の意図に沿って書き換える」

(全9時間)

3. 単元の目標

知識及び技能	言葉の特徴や役割、表現の特色を踏まえ、正確さ、分かりやすさ、適切さ、敬意と親しさなどに配慮した表現や言葉遣いについて理解し、使う。
思考力, 判断力, 表現力等	読み手の理解が得られるよう、説明の仕方を考えるとともに、文章の種類や、文体、語句などの表現の仕方を工夫する。
学びに向かう力, 人間性等	言葉の特徴や役割、表現の特色を踏まえ、正確さ、分かりやすさ、適切さ、敬意と親しさなどに配慮した表現や言葉遣いについて理解し、使おうとしている。

4. 言語活動

様々な文章を「やさしい日本語」を用いて、国籍や年齢を超えても分かるように書き直す。文章の例としては、教科書の評論、学校のHP、公的書類などを考えている。

5. 本時の目標

「やさしい日本語」という概念について理解する。

6. 授業展開

解決したい課題や問い

「難しい日本語」を分かりやすく書き換えるポイントを、4つにまとめてみよう。

考えるための材料

導入 「日本語の何が難しいのか」アンケート結果（テキストマイニング）

A 日本語検定のホームページ

B 「山月記」・chatGPT マサルくん 3.5

C 災害、医療、観光で使われている「やさしい日本語」

想定される活動

A 日本語検定の認定目安から、日本語の難しさの基準を理解する（言語習得）

B 「山月記」冒頭を chatGPT に指示して簡易な表現に置き換える（指示系統）

C 「やさしい日本語」の用例を見て、その特徴を分析・集約する（現場観測）

対話と思考 (対話を通じた協働的な問題解決のプロセス)

- ①事前に行った「日本語の難しさ」アンケートの結果をシェア
テキストマイニングでイメージを共有
ここで上がった「難しさの解消」のためにできることを、本時の活動を通して模索する。
- ②材料1～3のグループで課題の答えを思考 エキスパート学習
  - A N5では漢字はあまり出ないし、助詞の問題も少ないね。
→文章はひらがなやカタカナを多めに使った方がいいかもしれない。
  - B 簡単な表現にさせても分かりにくい部分がある。どう指示すればいいだろう？
→言葉を個々に翻訳するか、対象年齢を限定するのはどうだろう。
  - C 使っていることばが分かりやすい。文章も短くて、敬語を使っていないところもある。
→あまり長い文章や格式ばった文章よりもシンプルな方がいいんだろうな。
- ③材料A～Cのグループを組み直して共有・再試行 ジグソー学習
  - 1 AとCで似た意見が出ているね。同じ提案としてカウントしよう。
  - 2 Aでは漢字についての指摘が多かったけど、Bでは文の長さについて書いてある。
  - 3 合わせて5つになったけど、4つにするにはどれを削ろうか。
- ④各グループの答えを全体共有
google フォームで、リアルタイム記入
  - ・ 答えを統計し、グラフなどにまとめてくれる
  - ・ 生徒が慣れていて、全員から回答が得られる
- ⑤教員によるまとめ、「やさしい日本語」の概念の説明
各グループのまとめを確認、相違点を整理
概念として「やさしい日本語」があることを説明
次回からその概念を用いて、文章の書き換えを行うことを説明

学習の成果 (予想される生徒のあらわれ)

難しい日本語は、次のようなポイントで書き換えると分かりやすい。簡単な表現、シンプルな文法、一貫性のある文体、読み手に合った語彙などである。これらの特徴を持った日本語を「やさしい日本語」という。